

第2章 理想の街にむけて

～これまでの振り返りと今後の展望～

1 ながの環境パートナーシップ会議の4年間(平成30年度～令和3年度)の活動と今後の展望

これまでの4年間の活動を振り返り、今までの成果と今後の展望をまとめました。

(1)ながの環境パートナーシップ会議の4年間の活動

①全体の総括

持続可能な開発目標「SDGs」が広く普及し、環境問題に対する関心が高くなっていく一方、それを実践に移すことは困難が伴います。「ながの環境パートナーシップ会議」でも活動の続けていくことの難しさを実感する4年間となりました。

2019（令和元）年度に発生した令和元年東日本台風では、生ごみプロジェクトのキッズ生ごみ農園が浸水、市民の森プロジェクトのボブスレー・リュージュパークの森では倒木等、私たちの活動フィールドが大きな被害を受けました。2020（令和2）年に入ると、新型コロナウイルス感染症が拡大し、活動の大幅な縮小を余儀なくされました。大規模な体験会や講習会などの開催が難しい中ではありましたが、民間団体の助成金を活用し台風被害からの復旧を行ったり、感染拡大防止策を実施したうえでイベントを実施したりと、各プロジェクトが手探りでできることに取り組んできました。

現在、複数のプロジェクトが休会となっており、全体的な高齢化や後継者不足も引き続き大きな課題です。これまで活動紹介や、新規会員勧誘の場となっていた「ながの環境団体大集合」や各種環境イベントが台風や新型コロナウイルスの影響で軒並み中止となり、思うように活動力の確保ができませんでした。

コロナ禍により移動や集合が制限され、人々のつながりがますます希薄になっていく中で、20年前に私たちが提案した、市民・事業者・行政の協働（パートナーシップ）により環境問題の解決に向けて取り組んでいくという理念の実現は、今、まさに正念場を迎えているといっても過言ではありません。

ながの環境パートナーシップ会議は、対価を求めない多くのボランティア活動によって支えられています。今後は、長野市の環境活動のプラットフォームを目指して必要な改革を進めるとともに、安心してボランティア活動に参加できるような体制の構築を検討、実施していきます。

②シンボル事業の実施と各種団体事業の支援

1 ながの環境団体大集合

ながの環境パートナーシップ会議のシンボル事業として、2012（平成24）年度から毎年度開催されています。「環境活動を次世代につなぐ・伝える」をテーマに、若者の皆さんや環境団体、企業、学校相互の交流・協働のきっかけになることを目的に開催されました。2019（令和元）年度および2020（令和2）年度は中止となり、2021（令和3）年度はオンラインにて開催しました。



2 ライトダウンキャンペーン

ながの環境パートナーシップ会議が参画していたライトダウンながの実行委員会が、広く市民に対して日頃いかに照明を使用しているかを実感してもらいながら省電力を呼びかけ、地球温暖化問題について考えてもらうことを目的に2008（平成20）年から開催。このキャンペーン期間中には、各家庭、事業所などになるべく電気を消してもらおうよう呼びかける運動をもとにキャンドルナイトコンサートを開催していました。

2020年（令和2）年度をもって 実行委員会が活動を終了しました。



3 アレチウリ駆除

豊かな環境づくり長野地域会議の事業（美化活動）の一環として、水辺の生態系を攪乱する外来植物「アレチウリ」を駆除する活動が実施されていました。ながの環境パートナーシップ会議は、この趣旨に賛同し、2016（平成28）年度から「アレチウリ駆除事業」に参加していましたが、2020（令和2）年度以降、新型コロナウイルスの影響により、未実施となっています。



4 水環境全国一斉調査

河川をはじめとする身近な水環境に対する市民の意識の高まりを受け、2004（平成16）年から毎年、全国各地で世界環境デー（6月5日）に最も近い日曜日を中心に全国一斉水環境調査が実施されています（長野市では、NPO法人みどりの市民が主催）。ながの環境パートナーシップ会議では、2017

（平成29）年度からこの趣旨に賛同し、「身近な水環境の全国一斉調査」に参加していましたが、2020（令和2）年度以降、新型コロナウイルスの影響により、未実施となっています。



5 信州大学工学部 地域環境演習

工学部学生を対象とした選択科目「地域環境演習」は、環境マインドをもつ人材の育成を目的として、平成19年度より開講されています。この授業では、受講生が「ながの環境パートナーシップ会議」のプロジェクトチームに参加し、環境問題解決への取組を通して、「自らPDCAサイクルを機能させて行動できる」ことを目標としています。



6 山の日ウォーキング、山の日学習会

2017（平成29）年8月、山の日が制定されたことを記念し、山に親しむとともに自然の大切さや地域の歴史を理解してもらうため、市との協働により「山の日ウォーキング」を開催しました。その後も「山の日学習会」として、聖山や茶臼山といったながの環境パートナーシップ会議の活動フィールドで開催されてきましたが、2020（令和2）年度以降、新型コロナウイルスの影響により開催規模を縮小することとなり、協働を終了しました。



(2)ながの環境パートナーシップ会議の今後の展望

ながの環境パートナーシップ会議では、持続可能な社会を目指した環境保全を推進するため「つなぐ」「伝える」「実践する」活動に取り組むとともに、今後、環境保全のための私たちの役割は何かを見つめなおし、体制の刷新を含めて検討していきます。

① 市民・事業者・行政の参加と協働「つなぐ」

「ながの環境パートナーシップ会議」の活動は、市民・事業者・行政のパートナーシップによる協働によるものですが、今後も活動を推進していくためには、社会的な認知や各セクターの参加をさらに広げていくことが必要です。

今後は、こうした活動や成果について、各種イベントへの参加やフォーラムなどの開催を通じ、より広く発信することで「ながの環境パートナーシップ会議」の認知度を高め、市民や事業者などに参加を呼び掛けていきます。

また、プロジェクトチームが市の担当課と情報共有や協働をより円滑に行うことができるよう、必要に応じてマッチングを促進していきます。

② 時勢に見合った「シンボル事業」の検討「伝える」「実践する」

「ながの環境パートナーシップ会議」では、例年「ながの環境団体大集合」を開催してきましたが、2019（令和元）年度、2020（令和2）年度はイベントが中止となりました。2021（令和3）年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで開催したところ、遠方の人とつながったり、若い世代との協働が実現したりと、イベント開催について多くの気付きを得ることができました。

今後は「ながの環境団体大集合」の名前に囚われることなく、時勢に合ったイベントを、時勢に合った方法で実施していくことを検討します。

③ プロジェクトの着実な推進「実践する」

現在活動しているプロジェクトについては、これまでの成果や課題などを整理した上で、活動を継続するとともに、新たな活動の提案を会員から募集し、その提案を受けて、新しいプロジェクトの立ち上げを図ります。

プロジェクト活動の質を高め、量を増やしていくことで、全体の活性化を図っていきます。

④ 環境団体などの連携「実践する」

環境問題の解決には、「ながの環境パートナーシップ会議」のほか、環境活動に取り組んでいる地域や環境団体などと協働で取り組んでいくことも必要です。

信州大学工学部とは、「地域環境演習」により、学生を各プロジェクトチームで受け入れて環境保全活動を実施しています。この他にもライトダウンキャンペーンやアレチウリ駆除など様々な連携活動を実施していましたが、多くが新型コロナウイルス等により、活動休止や終了してしまいました。

今後も、このような環境保全活動に取り組む市民・事業者・行政などの交流により、互いの連携、協働につながる事業を継続的に開催し、「ながの環境パートナーシップ会議」の「つなぐ役割」を強化していきます。

⑤ 環境保全活動推進のプラットフォームとして

「つなぐ」「伝える」「実践する」

これまで示したとおり、環境活動を取り巻く周囲の状況は会議結成当初から大きく変わっています。また、ながの環境パートナーシップ会議自身も会員、プロジェクト、理事の減少が進み、活動が縮小を続けているのが現状です。

環境ビジョンの実現のためには、会員の活動はもちろん、ながの環境パートナーシップ会議の外で行われている活動との連携も必要不可欠です。そのためには、現在のビジョン・プロジェクト体系や推進体制を含めて、根本的に組織の在り方を見つめ直していく必要があります。

今後とも、ながの環境パートナーシップ会議が長野市の環境活動のプラットフォームであり続けるために、必要な構造改革に取り組みます。

⑥ ながの環境パートナーシップ会議の数値目標

ここまで挙げた今後の展望を実現していくために、ながの環境パートナーシップ会議としての目標、行動計画ならびに数値目標を以下のとおり設定します。



ながの環境パートナーシップ会議			
目標	市民・事業者・行政のそれぞれが適正に役割を分担しつつ、対等の立場で協力して、環境保全活動に取り組めるようにし、地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐこと		
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新アジェンダの推進、進捗管理 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「実践する」活動を充実させる。 ・市民、事業者、行政との役割分担の協働事業の推進 ・新規会員の入会促進 		
数値目標	指標	現状：令和3年度	目標：令和8年度
	ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 (年間・延べ人数) ※第五次長野市総合計画及び第三次長野市環境基本計画と同じ数値目標	1,805人	4,000人
	ながの環境パートナーシップ会議の環境保全に関する取組件数 (年間取組件数)	238件	300件
	プロジェクト実施件数 (年間実施件数)	9件	15件